会　報

No.71（2002年２月）

目　　次

◆分子生物学のさらなる発展をめざして…… 1
◆日本分子生物学会 第12期 第２回評議員会報告…… 2
◆日本分子生物学会 第24回 総会報告…… 3
◆日本分子生物学会 2002年度会計収支予算 …… 4
◆第24回日本分子生物学会年会 年会報告 …… 5
◆第24回日本分子生物学会年会 講演要旨集について …… 5
◆第24回年会での www による演題受付と第25回年会での演題受付の予定 …… 6
◆第24回日本分子生物学会年会 保育室の設置・運営の報告、および
ワーキンググループからの要望と提案…… 8
◆第２回 春季シンポジウム「新世紀の分子生物学」のご案内 …… 9
◆第25回（2002年）年会のお知らせ（その１） …… 18
◆学術賞、研究助成の本学会推薦について…… 21
◆研究助成一覧…… 22
◆各種学術集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ…… 24
○第39回日本臨床分子医学会学術総会…… 24
○第156回液体クロマトグラフィー研究懇談会 …… 24
○遺伝子・デリバリー研究会　第２回シンポジウム…… 24
○第６回マリンバイオテクノロジー学会大会…… 25
○Epigenetic mechanisms in Human Disease …… 25
○第２回日本蛋白質科学会年会…… 25
○第23回日本糖質学会年会…… 26
○日中国交正常化30周年記念「日中医学大会2002」…… 26

日　本　分　子　生　物　学　会
(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)
URL：http://wwwsoc.nii.ac.jp/mbsj/

◆分子生物学のさらなる発展をめざして

日本分子生物学会会長　小川智子

平成13年度の第１回春季シンポジウム（盛岡：小川英行先生）と第24回日本分子生物学会年会（横浜：山本正幸先生）が盛会であったことは、大変に喜ばしく、皆様方のご協力とそれぞれを主催された先生方のご尽力に、改めてここに深く感謝致します。

私が会長に就任しました昨年の４月は、私にとりまして公職を定年となった時でもあり、過ごして来た研究生活を振り返る時でもありました。まさに日本の分子生物学の歩みと共に研究生活を送ってきたことを思うと感慨深いものがあります。ここ数年の間に退職された会員の先生方の中には、同じ感慨に浸られた方々もおられたのではないかと思います。私たちの年代の者が過ごして来た青年時代は、戦後の復興の時でもありましたので、国民全体が経済の発展を重視して夢中になって生活していた時代であったと思います。従って当時の研究には、無意識にその風潮や環境が反映していたと思います。研究に必要な物資の不足を補うための創意工夫の姿勢が必要でしたし、また努力とアイディアが研究の成否を分けていました。実は、そのことによって研究する事の楽しみが増していたようにも感じます。そして、協力が必要なことから、研究室が同じ意識のもとで研究することが割合に簡単にでき、成果が上がった時にはそのグループ全体の至上の喜びであったと思います。現在、私達の生活環境が欧米なみになるとともに、研究環境が改善され、研究することに不便を殆ど感じなくなったことは喜ばしいことですが、それとともに研究者間の連帯感が薄れ、ともに感激を味あうことが少なくなり、共通の喜びを見出せなくなっているように感じます。さらに、研究の多様化が進み、得られる情報が煩雑になり、量も膨大になって、研究に必要な情報の取り出しが難しくなり、そのため研究を深く考える時間が失われているように見えます。このような状況は、質の高い研究の遂行を難しくし、研究も便利さを利用したものに片寄る素地を作り、独自の研究の進展に支障をきたすことになるのではないかと恐れます。創造性のないところには優れた研究は育たないし、豊かな文化の向上はあり得ないのですから、まさに現在こそ、科学者が真剣に独自の研究のあり方について考えなければならない時だと思います。

一方、科学の発展は広い底辺を持ったところで行われなければ、多方面の分野に多くの優秀な研究者を生み出すことはできません。そのためには、できるだけ多くの若い人材の育成が必要です。我が国の生命科学の教育の現状をみると、学問の進歩と多様化の速度があまりにも早いために、それらを教育に取り入れる体制作りが追い付いていないことが分かります。これは今後の科学の発展を支える人材育成が、研究が行われている場に片寄ってしまっていることを意味します。例えば、日本分子生物学会を例に取りますと、会員の研究場所は圧倒的に大都市に集中しています。学会の年会は、日本の最先端の研究の発表の場の一つであり、それらを知る場でありますが、それが都市の研究者や学生の参加を中心にして行われていることは、国民全体が、科学の発展の恩恵を受けられるような場になっていないことを意味します。地方と大都市の間で、その理解に格差が生じることは、その学問を志す人材の数を少なくし、学問の発展を遅らせることに繋がります。また、学問の発展の恩恵が社会に広く還元されてこそ、初めて社会の文化の向上にも繋がるのですから、国民一人一人の正しい理解が必要となります。

この意味で、日本分子生物学会が、地方都市で春季シンポジウムを行うことを計画したことは、画期的な意味があります。このシンポジウムは、多様化した学問の進歩を、分野を超えて聴く場を設け、議論し、より充実した研究の発展を促進するために計画されましたが、同時に地域に根ざした研究の発表の場でもあり、地域の大学の多くの研究者や学生と都市の研究者の交流を図る場にもなりました。何よりも、地域で行われている研究の面白さが、都市の研究者にも伝わったこと、また、地方の研究者に年会に参加しようと思わせたことは、分子生物学が地方に広がることができるという期待を強くしました。同時に行われた、市民講座は、多くの市民に加え、高校生や看護学生に、身近な事柄の理解が遺伝子のレベルで解き明かされる妙味を伝え、生命科学が我々の生活に入り込んだ学問であることが伝わったという意味で、非常に大きな収穫がありました。私は、これらの参加者のほんの一握りの人達でも、

今後理解を深めて、地方の教育や研究の起爆剤的役割を担うように育つ事を願っています。生命科学が、いかに自分達の実生活に密接に関係しているかが一般の人々に理解されることが、生命科学の研究分野に優秀な人材を育成することを可能にする道と思います。

そのためには、大学や研究機関での広い視点からの教育が重要であるのはもちろんですが、さらに将来を考えると、高等学校や大学１、２年生に学問を正しく教えることのできる教師の育成が大切ですし、学生が使用する教科書の改良も必要となります。また、義務教育の生徒の理科教育の充実も不可欠です。しかし、これらの活動を成し遂げるためには、それぞれの分野の研究を支えている研究者の積極的な協力と自覚が必要です。そのために、日本分子生物学会としても積極的にその一端を担う義務があると思います。分子生物学のさらなる発展のためにも、日本の科学の発展のためにも、これらは極めて重大な問題で、会員諸氏の充分な考慮とその行動に、大きな期待をいたしております。

◆日本分子生物学会 第12期 第２回 評議員会報告

日　時：2001年12月９日（日）15：30～19：30

場　所：パシフィコ横浜３階ラウンジ

出席者：小川智子（会長）、相沢慎一、池田日出男、石川冬木、磯野克己、大石道夫、大坪栄一、
大野茂男、岡田清孝、小川英行、勝木元也（第26回年会長）、品川日出夫、篠崎一雄、
西田栄介、花岡文雄、藤井義明（第25回年会長）、升方久夫、町田泰則、御子柴克彦、
山本　雅、山本正幸（第24回年会長）、荒木弘之（庶務幹事）、仁木宏典（会計幹事）、
山本雅之（編集幹事）、飯野雄一（集会幹事）、宮川都吉（第２回春季シンポジウム世話人）

欠席者：新井賢一、岡野栄之、榊　佳之、清水信義、月田承一郎、中西重忠、本庶　佑
鍋島陽一（編集幹事）、嶋本伸雄（広報幹事）、佐竹正延（集会幹事）

議　事：

1．第１回評議員会の議事録を確認した。

2．報告事項

1）庶務幹事より文部科学省平成14年度科学研究費補助金の審査委員候補者として第一段審査委員１４名、第２段審査委員４名を推薦したことが報告された。

2）賞推薦委員より、本年度はまだ賞の推薦には至っていないとの報告がされた。

3）選考委員長より、選考助成候補の推薦の状況について報告された。

4）会計幹事より2000年度日本分子生物学会収支決算の報告が行われた。すでに会計監査の検査により、適正に予算の執行が行われたことが確認された。続いて、2001年度会計の中間報告がなされ、支出も含め順調に執行されていることが紹介された。

5）山本正幸第24回年会長から、第24回年会についての説明があった。これに関連して、Webによる年会講演要旨受付の労をとられた磯野克己委員より、一時インターネットの不調から受付に支障が生じたが、全般的には順調に受付ができたこと、また検索システムを導入したところ、講演要旨集配付後も検索ページへのアクセスが絶えず、検索機能の需要が高いことが報告された。

6）藤井義明第25回年会長より、第25回年会は、2002年12月11日（水）～14日（土）の期間、パシフィコ横浜で開催の予定であり、順調に準備が進んでいるとの報告がされた。

7）第26回年会は、勝木元也評議員を年会長として、2003年12月10日（水）～13日（土）の期間、神戸国際展示場ならびに神戸国際会議場を主会場として開催される予定であることが報告された。

8）第２回春季シンポジウムは、宮川都吉教授をオーガナイザーとして、2002年５月13日（月）～14日（火）の期間、広島国際会議場（広島市）で開催される予定で、講師の人選も含め準備が順調に進んでいる旨が紹介された。

9）広報幹事の代理として会長より、ホームページの運用が支障なく進んでいるとの説明があった。

10） 編集幹事より Genes to Cells が投稿、刊行とも順調であり、海外からの投稿が増えてきているとの説明があった。また、2000年度の impact factor は4.885であるとの紹介があった。

11） 生物科学関連学会連合会有志で始められている生物科学教科書作成委員会について、小川英行委員より報告があった。今後も、小川英行委員に生物科学教科書作成委員会に、日本分子生物学会代表として参加してもらうこととなった。

3． 協議事項

1） 会長より、2002年度の事業計画について、春季シンポジウムの際に市民シンポジウムを開くなど、地方での分子生物学の啓蒙にも力を入れること、また教育の問題に関連して教科書作成にも学会として関与していきたい旨の方針が示され、了承された。

2） 会計幹事より、2002年度の予算案が示され、異議なく了承された。

3） 第27回年会を、柳田充弘京都大学大学院教授に年会長をお願いすることとなった。第27回年会は、2004年12月 8 日（水）～11日（土）の期間、神戸国際展示場ならびに神戸国際会議場を主会場として開催される予定である。

4） 2003年春季シンポジウムの開催について、押村光雄鳥取大学教授にオーガナイザーをお願いすることとなった。

5） 日本学術会議分子生物学研究連絡委員会での議題を考えて欲しい、との松原謙一日本学術会議会員から申し出があったとの報告があり、生物科学教育のあり方、組換え DNA ガイドライン、について議題としていただきたい旨を伝えることとした。

6） 広報幹事からホームページへの企業からの求人広告の扱いについて諮問があり、賛助会員企業からの研究者・技術者の求人に限り、企業の求人ページへのリンクを認めることとした。

◆日本分子生物学会 第24回 総会報告

日　時：2001年12月11日（火）18：40～19：20

場　所：パシフィコ横浜会議センター 1 階メインホール

議事内容：

1． 開会の挨拶の後、総会議長として坂野　仁氏と大坪久子氏を選出した。

2． 議長より委任状を含めて700名以上の総会参加があり、総会が成立していることが発表された。

3． 小川会長より2001年度の学会活動の概要の報告と今後の方針について説明がされた。

4． 鍋島編集幹事より Genes to Cells の編集・発行とも順調であるとの紹介がされた。

5． 荒木庶務幹事より会員数の報告などがあった。

6． 嶋本広報幹事よりホームページの運営状況について報告があった。

7． 宮川世話人より第 2 回春季シンポジウムについて、2002年 5 月13日（月）～14日（火）の会期で、広島国際会議場（広島市）を会場として準備を進めている旨の説明があった。

8． 仁木会計幹事より2000年度会計収支決算書が提出・説明され、異議なく承認された。

9． 仁木会計幹事より2002年度事業計画および収支予算案が提案・説明され、異議なく了承された。

10． 山本第24回年会長の挨拶があり、参加者が 3 日目の時点で7,700名を越えており、年会は順調に運営されている旨の説明があった。

11． 藤井第25回年会長の挨拶があり、2002年12月11日（水）～14日（土）の期間、パシフィコ横浜を会場として準備を進めているとの説明があった。

12． 勝木元也評議員より第26回年会長を引き受けるとの挨拶があり、2003年12月10日（水）～13日（土）の期間、神戸国際展示場ならびに神戸国際会議場を主会場として開催する予定であることが報告された。

13． 議長より閉会の挨拶があり、総会が終了した。

◆日本分子生物学会 2002年度会計収支予算

２００２年度日本分子生物学会収支予算

（２００２年４月１日 ～ ２００３年３月３１日）

収入の部　　単位：円

科　　目	2001年度予算額	2002年度予算案	備　　考
学　会　費	42,210,000	45,600,000	正会員会費：　32,400,000円 （8,000名 x 4,500円 x 0.9）
賛助会費	1,350,000	1,350,000	学生会員会費：　12,150,000円 （ 4,500名 x 3,000円 x 0.9）
広告収入	0	2,000,000	海外会員会費（200名）：　750,000円
預金利子	120,000	120,000	入会金（300名）：　300,000円
雑　収　入	50,000	50,000	
収入小計	43,730,000	49,120,000	
前年度繰越金	※ 25,630,000	22,560,000	※2000年度決算・繰越金概算とした
合　　計	69,360,000	71,680,000	

支出の部

科　　目	2001年度予算額	2002年度予算案	備　　考
事　業　費	21,800,000	24,800,000	
会報発行	3,000,000	3,200,000	
年会補助金	5,000,000	5,000,000	{ 第26回年会補助：　300万円 プログラム・第25回年会分：　200万円
春季ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ補助金	4,000,000	7,000,000	
国際誌発行支援金	4,000,000	4,000,000	
〃 ｵﾝﾗｲﾝｱｸｾｽ費用	3,500,000	3,500,000	ブラックウェル社支払い
国際誌購読関係費	1,000,000	800,000	国内購読取りまとめ費用等
ホームページ関係費	300,000	300,000	
その他	1,000,000	1,000,000	講習会補助金他
評議委員会費	1,000,000	6,500,000	
委員会費	1,000,000	1,000,000	
選挙・名簿作成費	0	5,500,000	
業務委託費	11,000,000	12,000,000	会員増に伴う発送手数料増
一般事務費	11,000,000	13,900,000	
印刷費	400,000	400,000	
通信費	9,600,000	12,500,000	会報・プログラム・会員名簿他送料
庶務事務費	650,000	650,000	
雑　費	350,000	350,000	
予　備　費	2,000,000	2,000,000	
支出小計	46,800,000	59,200,000	
次年度繰越金	22,560,000	12,480,000	
合　　計	69,360,000	71,680,000	

※　上記の収支繰越金以外に、将来事業準備金　4,000,000円（定期預金）があります。

◆第24回日本分子生物学会年会 年会報告

第24回日本分子生物学会年会は、昨年12月９日（日）～12日（水）の４日間、パシフィコ横浜を会場に開かれました。年会には有料登録者として7,922名、海外からの招待演者などを含めると実に8,000名近い方々の参加がありました。この数は、史上最多といわれた前回を1,200名あまり上回るものであり、分子生物学会に対する皆様の関心と期待の大きさに思いをあらたにいたしました。

組織を担当した我々の予想を遙かに上回る参加者があったために、要旨集が品切れとなり、登録が遅れた当日参加の方々には行き渡らず、ご迷惑をおかけしました。また一部には立ち見で超満員となった会場もあり、ご不便をおかけしました。これらの不行き届きを深くお詫びいたします。

今回はポストゲノムを踏まえた21世紀最初の年会ということで、プログラム委員会を三十代から四十代前半の方々を中心に組織し、新鮮な発想で年会の構成を考えていただきました。そのことを反映していると思われますが、ほとんどのシンポジウム・ワークショップが盛況で活気あるものになりました。聴衆があふれる会場ができてしまったことは我々の不手際ですが、より根本的には、分子生物学会年会への参加者数が我が国最大級の会議場であるパシフィコ横浜のキャパシティーを上回ってしまったことに起因すると思われます。運営に関して次回以降への宿題が残りました。また、協賛してくださった企業が200社を超え、経済面で大変大きな恩恵を蒙りましたが、いっぽう、商業展示とポスター会場の面積のバランスの問題から、懸案であったポスターの２日展示が叶いませんでした。この点についても次回への申し送り事項とし、今後の年会が参加者にとってより快適なものになるように考えていただきたいと思います。プログラム委員会が企画しましたいくつかのシンポジウム・ワークショップもそれぞれ盛況裡に終わり、また今回初めて設置した保育室も無事に運営されました。年会運営に対する皆様のご協力と関係者のご尽力にあらためて厚くお礼申し上げます。

今回の年会は、従来の基幹的な分子生物学分野に加えて、ここ数年でめざましい展開を見せている核移植・再生医療の問題や、構造生物学、情報生物学などの分野についても、分子生物学会が重要な情報交換の場となることを明確に発信した年会であったといえそうです。大学院生の参加者がずばぬけて多い学会であることを考え合わせると、分子生物学会はまだまだ伸びるという、ある意味そら恐ろしい結論が導かれるのではないでしょうか。

以上、学会と年会の健全で建設的な発展を望みつつ、簡単ですが第24回日本分子生物学会年会のご報告とさせていただきます。最後に、本年会の成功を支えてくださった、バイオテクノロジーセミナー、機器・試薬・書籍展示にご参加くださいました多数の関連企業の皆さまに心よりお礼を申し上げます。

第24回日本分子生物学会年会　年会長　　山本　正幸

◆第24回日本分子生物学会年会 講演要旨集について

第24回日本分子生物学会年会には、予想を上回る多数の方々にご参加をいただきましたため、当日登録をいただきました方全員に講演要旨集が行き渡らず大変申し訳ございませんでした。

ところで、年会会場で当日受付けされた方でかつ「講演要旨集引換券」をお受け取りになった方で、まだ引換えを済まされていない方がまだ若干おられます。大至急下記事務局まで、引換券をお送りのうえ、「講演要旨集」をご請求ください。講演要旨集をお送りいたします。

第24回日本分子生物学会年会事務局
〒560-0082 豊中市新千里東町 1-4-2
千里 LC ビル　14階学会センター関西内
Tel：(06) 6873-2300　Fax：(06) 6873-2300
e-mail：o-conf@bcasj.or.jp

◆第24回年会での WWW による演題受付と第25回年会での演題受付の予定

すでに会報 No. 69で報告した通り、日本分子生物学会では年会における一般演題の投稿受付をWWW で行うことを決め、第23回年会から実施した。第 1 回目の第23回年会では従来のハードコピーによる投稿受付を併用したが、実際にフタを開けてみると従来の方法での投稿はわずか65件しかなかった。そこで昨年12月の第24回年会（パシフィコ横浜）ではこれをさらに進めて WWW による受付のみとすることにした。昨年は受付期間がサーバーを設置してある神戸大学の学内 LAN の更新のための工事と重なり、工事の進捗に合わせてサーバーを 2 度移設しなけらばならなかったが、全体的には大した混乱もなく順調に推移した。当初 8 月31日を一般演題の投稿の締切日として設定した（その後数日延長した）が、図 1 に示すように、投稿は締切日とその前日に集中しており、この両日で5,000件以上のアクセスがあり、3,000件以上の投稿（再投稿を含む）があった。また、投稿回数については、全体の 6 割が 1 回目の投稿で完了しており、それらを含む全体の 9 割が 5 回以下の投稿・再投稿で終わっているが、最高38回の再投稿があった。なお、昨年度はシンポジウムとワークショップについては英語の投稿ページを作成して公開したが、実際には英語ページからの投稿は全部で25件しかなかった。

第 1 回目での経験を踏まえて、昨年度の投稿についてはタイトル、著者名、所属を含む要旨全体の長さのみの制限としたが、それでも年会業務を担当している学会センター関西には、この要旨の長さに関する不満が多く寄せられたと聞いている（後述参照）。さらに昨年度は、受付終了後にキーワードによる投稿内容の検索ができるようにした。ただし、年会の発表要旨について“personal communication”として扱うべきであり、不特定多数のユーザーに公開するべきではないという一昨年の評議員会におけ

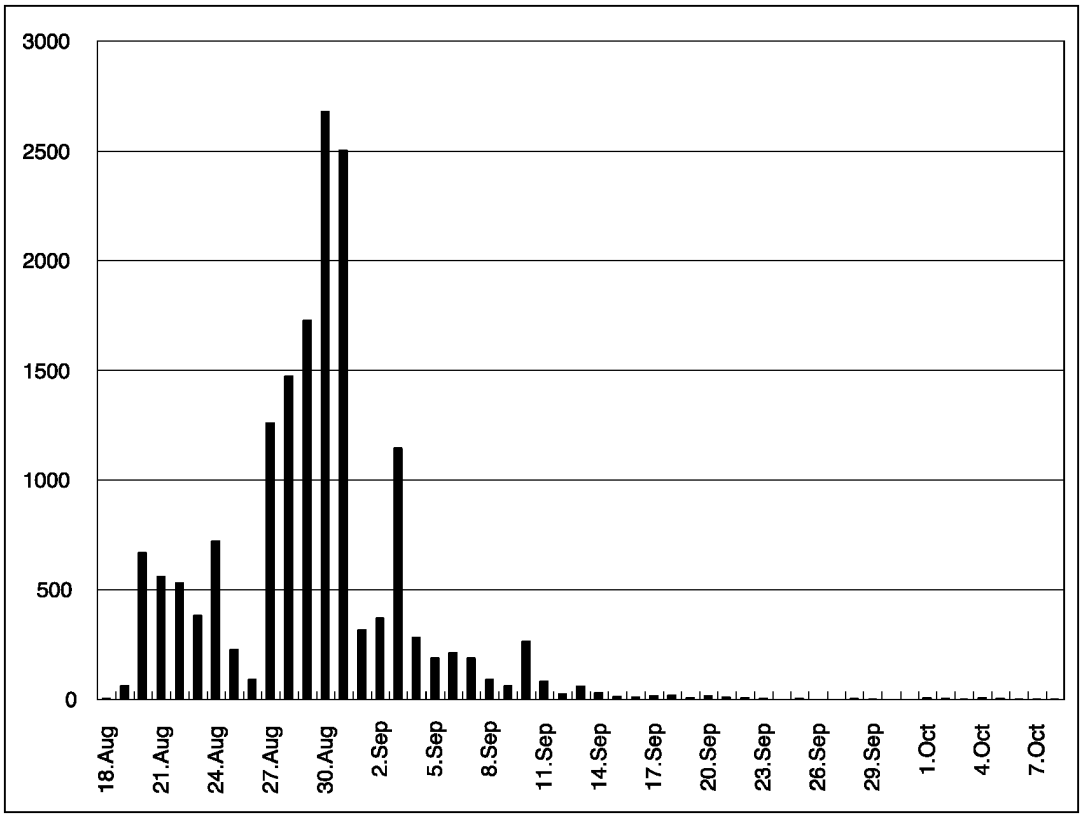


図 1 ：第24回年会における WWW による投稿受付け状況

る了解事項に基づき、検索結果は演題番号を通知することのみに止めた。この検索機能は、年会期間中に会場にパーソナルコンピュータコーナーが設置されたこともあって非常に多くの人に利用され、現在に至るもあまり多くはないが継続して利用されている。

第3回目に当たる本年12月の第25回年会のWWWによる投稿受付（本年8月下旬に行う予定）については、要旨の長さの制限を含めて一切の制限を撤廃する予定である（ただし、セキュリティーの問題があるので、絶対的な長さの制限を設ける必要はある）。その上で、要旨の長さに従って、印刷字のフォントの大きさを3段階程度に変化させて対応することを考えている。また、最近のブラウザーの「進化」に伴って「印刷イメージ」による確認には問題が生じているのでこれを廃止し、投稿時には、印刷の体裁と各種のデータ（投稿区分、投稿者名、電子メール、所属、要旨全体の長さ等々）の確認を行ってもらうように変更する予定である。なお、要旨中で使用できるHTMLタグについては、印刷の関係で6種類のみに限定してあると明示してあるにもかかわらず、指定外のタグを使用する投稿者がかなりあったので、次回の投稿受付では、次第に投稿データの処理用のプログラムが重くなってはいくものの、そのための対策も取らなければならないと考えている。会員のご理解とご協力をお願いしたい。

WWWによる投稿受付に関するご意見をいただければ幸いである。

磯野　克己（神戸大学理学部）

◆第24回日本分子生物学会年会 保育室の設置・運営の報告、および ワーキンググループからの要望と提案

昨年12月開催の第24回日本分子生物学会年会において、初めての年会保育室が設置された。平成12年度の第23回年会（神戸）の際に、多くの会員から要望が出されていたこともあり、山本前年会長は菊池淑子・大坪久子の両会員に年会保育室設置・運営の可能性を検討するよう依頼、両名は昨年３月に、設置・運営が可能との策定書を提出したという経緯があった。その後、前年会長の決断によって、昨年５月の時点で年会保育室設置が認められた。策定書を提出した両名は、実際に保育室を利用する年代の会員３名（池島宏子、三宅早苗、木村洋子）と共にワーキンググループ（以後 WG と略）を結成、年会保育室を準備し、運営してきた。開設してみると、４日間で17家族、のべ児童数34名という、今までの日本の学会で最も利用者数の多い保育室になるという予想以上の結果となり、日本分子生物学会年会における保育室の必要性が明らかになった。同時に、利用者から、「保育室の設置によって、学会に満足に参加できた」等の感謝の声が多く寄せられ、保育室は単に子育て研究者への支援というだけでなく、会員の学会参加を促す“学会の一層の活性化”にも重要な役割を果たすことが明らかとなった。

〈第24回年会保育室設置の概要〉

会場の一室に備品をレンタルし、シッター会社より利用人数に応じて保育士を派遣（約３名/日）してもらい、年会期間中、年会保育室として常設した。シッター会社は、全国ベビーシッター協会およびシッター業経営者賠償保証加入のアルファコーポレーションを選び、この会社との契約は11月に年会長との間で取り交わされた。利用希望者には、あらかじめ予約をしてもらい、保育料は、最終的には、ゼロ歳児800円/時間、一歳児以上600円/時間と設定した。

財政面では、部屋と備品の設置費用（14.5万円）を年会から、人件費（36.5万円）を利用者の負担（108,500円）と11社の企業（＊参照）からの寄付で賄った。企業からの寄付（合計39万円）や利用者の保育料は年会経費とは別枠で、保育室用として年会事務局（学会センター関西）に振り込んでもらい、余剰金は次年度以降の繰越金とした。

安全面では、事故に対してシッター会社が加入する保険が適用されることを明示して、利用者の保護者から同意書を提出してもらい、万一の事故に対しては年会および WG が責めを負うことのないよう配慮した。幸いにも、今回、事故はなかった。

〈問題点〉

1） 財政面：

今回、年会から会場の提供と設備費の援助を受けたが、それだけでは利用者にとって保育料が高額になりすぎることから、企業の寄付を受けた。しかし、年会とは別に保育室のためだけへの寄付を依頼する作業は、事務的に煩雑であるばかりか、年会本体に寄付を行っている企業に追加寄付を依頼することになり、企業側からみると理解しづらい部分が残った可能性がある。また、継続的に設置すべき保育室の運営のために、その年その年の個別寄付という不安定な財源に多くを頼ることには無理があることが分かった。

2） 運営面：

保育室を実際に準備/運営するには、そのための業務を担う安定的な運営主体が必要である。今回は WG がその作業を行ったが、メンバー間の打ち合わせ、会場の下見、シッター会社との打ち合わせ、利用予定者との連絡、数々の書類の作成、事前/事後の会計処理等の非常に多くの業務があることが分かった。さらに、それらに伴い、郵便代、印刷代、交通費、文具等の費用も発生した。しかし、今回のように、時間的、金銭的コストを負担しながら、WG というボランティア組織のみで継続的に保育室の運営業務を担い続けることには大いに無理がある。

〈提案と要望〉

現時点では、保育室が設置されるか否かは年会ごとに決定されるが、私共WGは、小川学会長をはじめ、学会評議員の先生方、会員の皆様方に対して、今後も継続して年会保育室が運営できるよう、まず、保育室設置を学会として認知していただきたいと要望いたします。

その上で、今後、年会保育室を恒常的に設置していくために、学会が、その意義を踏まえて運営を財政的に支援すること、また、WGというボランティア組織ではなく、日本学会事務センター等の事務機関に業務を委託できるようにすることを提案いたします。事実、日本分子生物学会と同規模の日本生化学会大会の保育室は、学会事務局が運営（日本学会事務センター大阪事務所が管轄し、シッター会社に委託している）していることも、ここに申し添えます。

平成14年1月23日

第24回日本分子生物学会年会・
保育室設置ワーキンググループ一同
池島宏子（慶應義塾大学）
大坪久子（東京大学）
菊池淑子（東京大学）
木村洋子（東京都臨床医学総合研究所）
三宅早苗（東邦大学）
（50音順）

＊　今回、年会保育室に寄付をいただいた企業は、インビトロジェン株式会社、アトー株式会社、岩井化学薬品株式会社、シグマアルドリッチジャパン株式会社、株式会社トミー精工、タイテック株式会、クロンテック株式会社、株式会社バイオクラフト、株式会社池田理化、東京サイエンス株式会社、日本フリーザー株式会社の11社でありました。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

◆日本分子生物学会 第2回春季シンポジウム「新世紀の分子生物学」のご案内

日本分子生物学会では、平成13年度（2001年）から「春季シンポジウム」を開催することになりました。平成14年度第2回春季シンポジウムの開催趣旨、計画および参加申し込み方法等をお知らせします。多数の皆様のご参加をお願いします。

趣　　旨：日本分子生物学会は、年々学会の規模が大きくなり、包含する研究分野も広範囲になり、さらに各研究分野は専門化の一途をたどっています。春季シンポジウムは、これらそれぞれの研究分野を総合的に考える機会を持つことを目的に開催されます。講師には最近話題の優れた論文を発表された方々を中心にお願いし、最先端の研究成果をもとに議論し、科学の発展に役立てたいと考えます。また会員数増加に伴い、学会年会は会場施設の関係で限られた大都市でしか開催できないようになり、若い研究者の参加は開催地とその周辺に偏りがちになっています。そこで、年会を開催できない都市においてこの春季シンポジウムを開催して、新しい方々の参加を期待するとともに、その地域の分子生物学研究の発展の促進に寄与することを目指しています。第1回春季シンポジウムは2001年5月に小川英行、小川智子両先生のお世話により盛岡市において開催され大きな成功をおさめたことを受け、第2回春季シンポジウム「新世紀の分子生物学」を広島市において開催することとなりました。今回は、特に多くの学生会員の参加を期待して、学生会員の参加費を無料とします。

開催日時：2002年5月13日（月）9：00～14日（火）16：00頃

開催場所：(講演会) 広島国際会議場
〒730-0811 広島市中区中島町 1-5（平和記念公園内）
Tel：(082) 242-7777　Fax：(082) 242-8010
(懇親会) 広島全日空ホテル　（5 月13日　19時～）
〒730-0037 広島市中区中町 7-20
Tel：(082) 241-1111（代）

参加予定人数：400人

プログラム：講演とポスター発表

講演予定者：荒木弘之（遺伝研)/井倉　毅（広島大)/上村　匡（京大)/岡野栄之（慶大)/角谷徹仁（遺伝研)/白川昌宏（横浜市大)/武田俊一（京大)/長田重一（阪大)/原田慶恵（都臨床研)/廣川信隆（東大)/本庶　佑（京大)/松崎文雄（東北大)/松本邦弘（名大)/宮川都吉（広島大)/森　和俊（京大)/森川耿右（生体分子工学研)/望月直樹（循環器センター)/山本　雅（東大)/山本雅之（筑波大)/横山茂之（東大)/吉村昭彦（九大)/他

ポスター募集：約100演題

第 2 回春季シンポジウムのタイムテーブル

9:00	12:00	13:00	14:00	15:30	16:00	17:00	18:30	19:00
5 月12日(日) 国際会議場			市民フォーラム				広島湾ディナークルーズ （希望者のみ）	
5 月13日(月) 国際会議場	講演（4～5）		ポスター発表		講演（4～5）			懇親会 全日空ホテル
5 月14日(火) 国際会議場	講演（4～5）		講演（4～5）					

発表形式：
(1)講師による講演：30分（講演25分、討論 5 分）
(2)ポスター発表：ポスター展示は 5 月13日(月）正午から14日(火）午後 1 時まで。ポスターボードの大きさは、幅90 cm 縦210 cm。

ポスター発表申込：**申込締切は 4 月15日（月）です。**
ポスター発表申込をご希望の方は、以下の要領で MS Word により作成して、「ポスター要旨」の件名で、メールにより mmizu@hiroshima-u.ac.jp（水沼正樹）宛にお送りください。
〈作成要領〉
発表演題
氏名
所属

要旨（400字程度）

参加申込：**申込受付は2002年３月１日（金）から４月30日（土）までです。**

参加申込みは、日本分子生物学会ホームページにリンクしているシンポジウム案内（http：//www.knt.co.jp/ec.bunshi-hiroshima）より直接お申込み下さい。

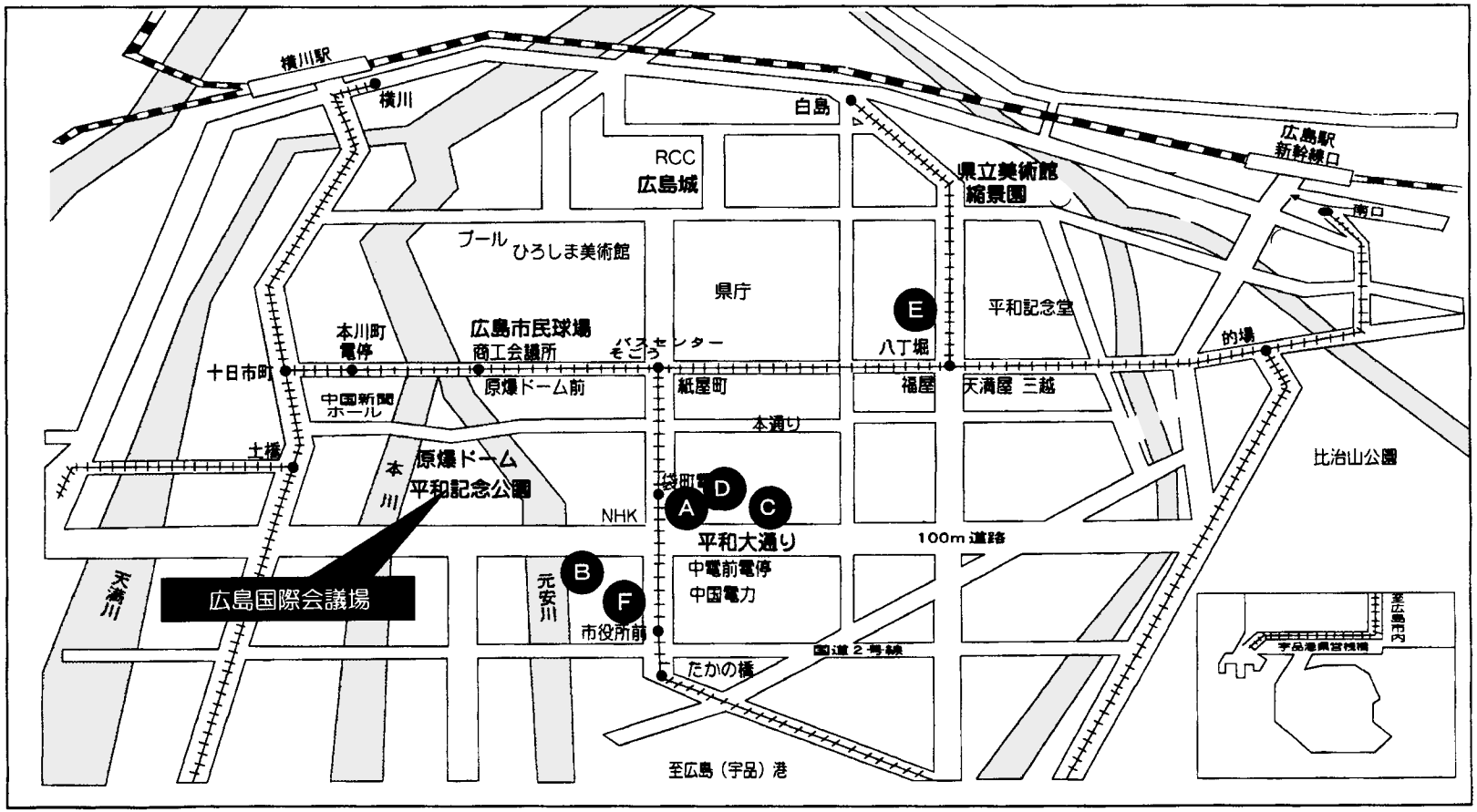
	参加費	懇親会費
非会員	5,000円	8,000円
会　員	3,000円	8,000円
学　生	無　料	8,000円

宿泊申込：**申込締切は2002年４月25日（木）です。**

13頁以降に掲載しております「宿泊・航空券・エクスカーションのご案内」に従ってお申込みください。

シンポジウムの詳細は、日本分子生物学会ホームページ（http://wwwsoc.nii.ac.jp/mbsj/index.html）に掲載します。

連 絡 先：〒739-8530 東広島市鏡山 1-3-1
広島大学大学院先端物質科学研究科
宮川都吉　Tel：(0824) 24-7763　E-mail：tmiyaka@hiroshima-u.ac.jp
土屋英子　Tel：(0824) 24-7868　E-mail：etsuchi@hiroshima-u.ac.jp
平田　大　Tel：(0824) 24-7764　Fax：(0824) 24-7045
E-mail：dhirata@hiroshima-u.ac.jp



A・広島全日空ホテル　B・ホテルサンルート広島　C・三井ガーデンホテル広島
D・ホテル法華クラブ広島　E・ホテルシルクプラザ　F・ホテルオークランド広島

第2回　日本分子学会春季シンポジウム
宿泊・航空券・エクスカーションのご案内

この度、広島国際会議場におきまして「第2回日本分子学会春季シンポジウム」が開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

さて、全国各地から総会に参加される皆様方のご便宜をお計りするために、宿泊・航空券・エクスカーションのお世話を近畿日本ツーリスト㈱広島支店が担当させていただくことになりましたので、ここにご案内申し上げます。

皆様方のご来広を心よりお待ち申し上げます。

近畿日本ツーリスト㈱広島支店
支店長：上川　正芳

1.　宿泊のご案内

◆宿 泊 日：平成14年5月12日（日）～5月13日（月） 2泊
◆宿泊料金：お1人様　1泊朝食付（税金・サービス料込）

ホ　テ　ル　名	部屋タイプ	申込記号	宿泊料金	最寄りの駅からホテルまで ホテルより学会会場まで
広島全日空ホテル	シングル	A-S	11,000円	袋町電停下車　徒歩2分
	ツ イ ン	A-T	10,000円	ホテルより徒歩5分
ホテルサンルート広島	シングル	B-S	9,500円	中電前電停下車　徒歩2分
	ツ イ ン	B-T	8,400円	ホテルより徒歩3分
三井ガーデンホテル広島	シングル	C-S	10,500円	袋町電停下車　徒歩3分
	ツ イ ン	C-T	9,500円	ホテルより徒歩7分
ホテル法華クラブ広島	シングル	D-S	7,500円	袋町電停下車　徒歩2分
	ツ イ ン	D-T	7,000円	ホテルより徒歩5分
ホテルシルクプラザ	シングル	E-S	6,800円	八丁堀電停下車　徒歩1分
	ツ イ ン	E-T	6,000円	ホテルより徒歩10分
ホテルオークランド広島	シングル	F-S	7,500円	中電前電停下車　徒歩1分
	ツ イ ン	F-T	6,800円	ホテルより徒歩5分

◎何れのホテルも学会会場に便利なホテルをご準備しております。
◎ご希望のホテル及び部屋タイプが満室の場合がございますので、第2希望までご記入下さい。

2.　航空券のご案内

学会参加の皆様方のご便宜をお図りするため、下記の通り航空券の特別割引運賃の設定をさせていただきます。格安な料金設定となっておりますのでご利用下さい。各便とも全体で5名様以上のお申込みより適用させていただきます。

往　路

記号	搭乗日	区　間	出発時間帯/到着時間帯	普通運賃	特別割引運賃
あ	5/12(日)	羽田⇒広島	8:00～ 9:00頃/ 9:20～10:20頃	26,000円	13,500円
い	5/12(日)	羽田⇒広島	13:00～14:00頃/14:20～15:20頃	26,000円	13,500円
う	5/12(日)	羽田⇒広島	17:00～18:00頃/18:20～19:20頃	26,000円	13,500円

復　路

記号	搭乗日	区　間	出発時間帯/到着時間帯	普通運賃	特別割引運賃
ア	5/14(火)	広島⇒羽田	19:00～20:00頃/20:20～21:20頃	26,000円	13,500円
イ	5/15(水)	広島⇒羽田	10:00～11:00頃/11:20～12:20頃	26,000円	13,500円
ウ	5/16(水)	広島⇒羽田	15:00～16:00頃/16:20～17:20頃	26,000円	13,500円

◎上記時間は平成14年２月のダイヤを参考にしています。発着時間は変更になることがありますのであらかじめご了承下さい。
◎ご希望の便が満席の場合もございますので、第２希望までご記入下さい。
◎航空保険料500円を含めております。

3.　エクスカーションのご案内

Ａコース（広島湾ディナークルーズ・銀河）
　◯旅行期日　　2002年５月12日（日）
　◯ご旅行代金　お１人様　10,000円（学割：5,000円）
　◯募集人員　　80名（最少催行人員15名）

5/12 （日）	広島港～～～～～宮島沖(ライトアップされた世界遺産　厳島神社大鳥居)～～～～～ 18:50　（フランス料理コースディナーのご夕食） ～～～～～広島ベイブリッジ～～～～～広島港 21:00

Ｂコース（宮島１泊２日観光）
　◯旅行期日　　2002年5月14日（火）
　◯ご旅行代金　お１人様　24,000円
　◯募集人員　　40名（最少催行人員15名）

5/14 （火）	広島各ホテル＝＝＝＝宮島口～～～～宮島（泊） 貸切バス　16:00　連絡船　17:30
5/15 （水）	宮島・・・厳島神社・千畳閣・五重塔・・・ 8:00 ・・・宮島～～～～宮島口＝＝＝＝広島駅＝＝＝＝＝広島空港 連絡船　貸切バス　11:30　13:00

C コース（しまなみ海道　日帰りの旅）

◯旅行期日　　2002年 5 月15日（水）

◯ご旅行代金　お 1 人様　15,000円

◯募集人員　　40名（最少催行人員15名）

5/15 （水）	（ホテルにてご朝食）　　◆しまなみ海道 広島市内各ホテル＝＝＝＝新尾道大橋＝＝＝＝因島大橋＝＝＝＝生口橋＝＝＝＝ 9:00 ＝＝＝＝平山郁夫美術館＝＝＝＝多々羅大橋＝＝＝＝大山祇神社＝＝＝＝ 9:40　11:30　12:00（昼食）13:30 ＝＝＝＝来島海峡大橋＝＝＝＝来島海峡 SA＝＝＝＝波方港～～～～竹原港＝＝＝＝ 中四国フェリー 14:10　14:40　15:00　15:30　16:40 ＝＝＝＝広島空港＝＝＝＝＝広島駅 17:10　18:10

4.　お弁当のご案内

学会期間中の昼食弁当の手配をさせていただきます。広島の特色ある広島名物の「むさし」のお弁当をご賞味ください。

記　号	設定日	内　　容	特別価格
イ	5/13(月)	むさしおにぎり弁当（お茶付）	1,000円
ロ	5/14(火)	むさしおにぎり弁当（お茶付）	1,000円

5.　臨時リムジンバスのご案内

学会参加の皆様方のご便宜をお計りするため、学会終了後、会場から広島空港までの直行リムジンバスを設定いたします。バスセンターまで行かなくても、会場からすぐに直行できるため大変便利です。

記　号	設定日	行　　程	価　格
ハ	5/14(火)	国際会議場(学会会場)～広島空港	1,500円

6.　お申込方法

◆日本分子学会ホームページにリンクしている大会案内（http://www.knt.co.jp/ec/bunshi-hiroshima）より直接申込されるか、別紙申込書に必要事項をご記入の上、Fax にて近畿日本ツーリスト㈱　広島支店宛お送り下さい。

◆お申込み受付後、ご予約回答書・請求書を平成14年 5 月上旬までに送付いたしますので、ご確認願います。

7.　お申込締切日

◆平成14年 4 月25日（木）までにお申込み下さい。申込締切日以降のお申込みは、ご面倒ですが近畿日本ツーリスト㈱広島支店までご一報下さい。可能な限り受付させていただきます。

8. 費用お支払いのご案内

◆ご予約回答書・請求書がお手元に届きましたら、請求書記載の期日までに銀行振込またはクレジットカードにてお支払い願います。銀行振込の場合、振込手数料は各自ご負担下さい。

◆クレジットカードでお支払い予定の方は、自署のサインが必要になりますので、もれなくご記入下さい。

振込先：広島総合銀行　広島中央支店　普通口座　No. 1516862
口座名義　近畿日本ツーリスト㈱広島支店

9. 変更・取消について

◆変更・取消が発生した場合は速やかに御連絡下さい。お電話でのお申し出は間違いの元ですので、必ずFaxでお願い致します。

◆お申込み後の取消につきましては、下記の通り取消料を申し受けますのでご了承下さい。航空券については搭乗日の13日前より、変更の場合も取消料の対象となります。

宿　泊

取消日	9日前～2日前まで	前日まで	当日・不泊
取消料	10％	20％	80％

航空券

取消日	13日前から7日前まで	6日前～前日まで	当　日
取消料	3,000円	6,000円	9,000円

エクスカーション・弁当・リムジンバス

取消日	7日前～2日前まで	前日まで	当　日	無連絡および旅行開始後
取消料	30％	40％	50％	100％

第 2 回日本分子学会春季シンポジウム
宿泊・航空券・エクスカーション申込書

お申込み先：近畿日本ツーリスト㈱広島支店
〒730−0013　広島市中区八丁堀16−11
TEL：082−221−6112　FAX：082−223−2215

申込代表者名		電　話	−　　−
勤務先名		ＦＡＸ	−　　−
申込者住所 (書類送付先) 勤務先・自宅(○印)	〒		

	フリガナ 氏名	性別	年齢	ポスター発表	宿泊（上段第一希望・下段第二希望）			航空券（上段第一希望・下段第二希望）		懇親会	エキスカーション	弁当	リムジンバス	フリガナ ツイン同室者氏名
					5/12（日）	5/13（月）	5/14（火）	往路	復路					
記入例	ヒロシマタロウ 広島太郎	男・女	45	×	A−T B−T	A−T B−T		あ い	ア イ	○	A・C	イ	ハ	ヒロシマハナコ 広島花子
1		男・女												
2		男・女												
3		男・女												
4		男・女												

※申込書用紙の各欄に必要事項にご記入の上、FAX または郵送にてお申込み下さい。
※ツインルームご希望の方は、同室者氏名をご記入下さい。
※申込先：近畿日本ツーリスト㈱広島支店「**第 2 回日本分子学会春季シンポジウム**」係　担当：立山・吉川
※申込締切日：**平成14年 4 月25日(木)**
※お支払い方法
1. 銀行振込……広島総合銀行　広島中央支店
普通口座：No. 1516862　口座名義：近畿日本ツーリスト㈱広島支店
2. クレジットカード……下記のカードが利用できます。

ご利用カード名（○印をお付け下さい）

	VISA カード		日本信販カード
	JCB カード		ミリオンカード
	DC カード		ダイナースクラブカード
	UC カード		アメリカンエキスプレスカード

カード番号	−　　−　　−
有効期限	200　年　　月

私は支払いを当カードで行います。
平成14年　　月　　日
ご署名＿＿＿＿＿＿＿＿

◆第25回（2002年）日本分子生物学会年会のお知らせ（その１）

第25回日本分子生物学会年会を下記の要領で開催いたします。

1．会　期：2002年12月11日（水）～14日（土）
　　総　会：12月13日（金）
2．会　場：パシフィコ横浜
3．内　容：

現在下記の要領での開催を検討しております。詳細は次回会報（No. 72）でお知らせするとともに、第25回年会のホームページ（http://edpex104.bcasj.or.jp/mbsj2002/）にも公開します。

1）年会ではポスターによる一般演題、ワークショップ(約50テーマ)、シンポジウム(約50テーマ)、バイオテクノロジーセミナー等を計画しています。なお本年はワークショップとシンポジウムを時間帯で区切らず、同一時間帯に両者が並行して進行するようなプログラムにいたします。

2）ポスター発表の応募要領は次回会報（No. 72）に掲載します。応募の締切日は８月30日（金）の予定です。一般演題の中から一部を採用し、ワークショップで発表する方式を検討しています。なお、本年も、年会の参加および演題受付等は昨年度と同様すべて Web 上で行う計画で準備を進めています。

3）シンポジウム・ワークショップのテーマを公募します。シンポジウム・ワークショップについてのご提案がある会員の方は、「提案区分（シンポジウム・ワークショップのどちらか)、テーマと概要（400字程度)、世話人（２名程度）と数名の演者の氏名と所属、予想される聴衆の数」を、2002年３月29日（金）必着で、E-mail もしくは Fax で年会事務局宛に送付して下さい。なお、本年のシンポジウム・ワークショップについては、若手研究者の世話人によるセッションを積極的に取り上げたいと思っていますので、多数の若手研究者からのご提案をお待ちしております（若手であることを明記して下さい)。ただし、全体の日程等を検討したのち採否を決めさせていただきますので、採択されない場合もあることを予めご了承ください。一部のシンポジウム・ワークショップにつきましては組織委員会を中心に企画を進めており、まだ最終案ではありませんが、現在別表19頁のようなテーマが挙がっています。

4）講演要旨集は印刷物として発行します。Web 上での内容の公開はしませんが、on-line でキーワードによる内容の検索を行い、検索結果に一致した演題番号を知ることができるようにする予定です。

5）懇親会は行わず、代わりにミキサーを企画しています。

6）年会会場に保育室を設置することを検討しています。

なお、年会開催についてのご意見、ご希望は、年会長または総務幹事宛に直接ご連絡下さい。

〈第25回年会　年会長〉

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉
東北大学大学院生命科学研究科　分子生命科学専攻　藤井　義明
Tel：(022) 217-6590　Fax：(022) 217-6594　E-mail：ykfujii@mail.cc.tohoku.ac.jp
（以上の連絡先は2002年３月まで；４月以降の連絡先は Home Page に掲載します）

〈第25回年会　総務幹事〉

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町 4-1
東北大学加齢医学研究所　佐竹正延
Tel：(022) 717-8477　Fax：(022) 717-8482　E-mail：satake@idac.tohoku.ac.jp

〈第25回年会　事務局〉

〒560-0082 豊中市新千里東町 1-4-2
千里ライフサイエンスセンタービル14階　学会センター関西内
Tel：(06) 6873-2301　Fax：(06) 6873-2300　E-mail：bunshi25@bcasj.or.jp

〈別表〉　シンポジウム・ワークショップタイトル（案）

この表は現在、組織委員会で企画しているシンポジウム・ワークショップテーマ案です。シンポジウム・ワークショップ企画の立案の参考のために掲げるものであり、今後まだ変更、調整、追加などの可能性が残されています。

1. 分子生物学の新しい潮流　2002年
2. ゲノム・サイエンス・シリーズ
3. 細胞接着の制御メカニズム（細胞生物学シリーズ１）
4. 細胞の骨格と運動の制御メカニズム（細胞生物学シリーズ２）
5. 極性形成の分子メカニズム（細胞生物学シリーズ３）
6. 中枢神経系の領域形成
7. 神経回路網の成り立ちをさぐる―新規因子の探索から―
8. 哺乳類大脳皮質構築の分子メカニズム
9. アルツハイマー病の分子生物学
10. mRNA 局在と翻訳制御の分子メカニズム
11. ポストゲノム時代の戦略としての RNA interference
12. 自然免疫による異物認識の分子基盤
13. 複製フォーク進行阻害の回避とゲノム安定性の維持機構
14. DNA ポリメラーゼ研究の最前線
15. DNA修復機構研究の新展開
16. 植物細胞内における核・オルガネラ・共生細菌の相互作用
17. 発生過程における FGF シグナルの機能的多様性
18. 疾患関連遺伝子同定の戦略
19. 植物細胞の構築制御―ゲノム情報を用いた細胞構築様式の分子解剖へのアプローチ―
20. ポストゲノム時代の植物ホルモン研究―合成制御から・受容・転写制御に至る新しい局面―
21. ポストシークエンス時代のタンパク質の発現・提示系
22. モデル植物シロイヌナズナ―過去四半世紀の研究成果の総括とポストゲノム時代への展望―
23. ホヤ―脊椎動物のプロトタイプ―のゲノムサイエンスおよび分子生物学
24. クロマチン機能の基本相：遺伝情報の収納/とりだし/廃棄の分子メカニズム
25. 細胞核・染色体の分子構築と動態
26. リン酸化修飾による蛋白質の構造と機能の変化
27. ストレス感知と情報伝達
28. 免疫系における自己-非自己認識機構研究の新展開
29. 色素細胞の発生・多彩な機能発現・疾患
30. 高等植物の受粉・受精過程の分子遺伝学的解析
31. 減数分裂過程の染色体ダイナミクスとその制御機構
32. 原核生物の多様な可動遺伝因子
33. 加速進化による防御/攻撃蛋白質の構造・機能の多様化・適応戦略
34. ハイポキシア/アノキシアの生物学
35. ヘムオキシゲナーゼ；発現制御機構から遺伝子導入療法まで
36. 拡大するユビキチンバイオロジー
37. 核―細胞質間輸送の多様性と制御
38. 病原体の侵入と受容体の発現、極性、細胞内輸送

以上の他に、特別シンポジウムをプログラム委員会で企画する予定です。

第25回 日本分子生物学会年会　委員名簿

年 会 長

藤井義明　東北大学大学院生命科学研究科

副年会長

帯刀益夫　東北大学加齢医学研究所

アドバイザー

小川英行　岩手看護短期大学
水野重樹　日本大学生物資源科学部

幹　　事

佐竹正延　東北大学加齢医学研究所
榎本武美　東北大学大学院薬学研究科
水野健作　東北大学大学院生命科学研究科
山本雅之　筑波大学先端学際領域研究センター

組織委員

藤井義明　東北大学大学院生命科学研究科
帯刀益夫　東北大学加齢医学研究所
佐竹正延　東北大学加齢医学研究所
榎本武美　東北大学大学院薬学研究科
水野健作　東北大学大学院生命科学研究科
山本雅之　筑波大学先端学際領域研究センター
熊谷　泉　東北大学大学院工学研究科
五味勝也　東北大学大学院農学研究科
柴原茂樹　東北大学大学院医学系研究科
清水　透　東北大学多元物質科学研究所
西森克彦　東北大学大学院農学研究科
野田哲生　東北大学大学院医学系研究科
深水昭吉　筑波大学先端学際領域研究センター
安井　明　東北大学加齢医学研究所
山本和生　東北大学大学院生命科学研究科

プログラム委員

浅尾裕信　東北大学大学院医学系研究科
安部まゆみ　東北大学加齢医学研究所
井川俊太郎　東北大学加齢医学研究所
内田隆史　東北大学加齢医学研究所
大隅典子　東北大学大学院医学系研究科
大橋一正　東北大学大学院生命科学研究科
小川智久　東北大学大学院生命科学研究科
菊池英明　東北大学加齢医学研究所
久下周佐　東北大学大学院薬学研究科
草野友延　東北大学大学院生命科学研究科
倉田祥一郎　東北大学大学院薬学研究科
佐上郁子　東北大学多元物質科学研究所
東海林亙　東北大学加齢医学研究所
白川　仁　東北大学大学院農学研究科
関　政幸　東北大学大学院薬学研究科
十川和博　東北大学大学院生命科学研究科
高澤　伸　東北大学大学院医学系研究科
高橋和広　東北大学大学院医学系研究科
多田周右　東北大学大学院薬学研究科
田村宏治　東北大学大学院生命科学研究科
田村眞理　東北大学加齢医学研究所
津田雅孝　東北大学大学院生命科学研究科
津本浩平　東北大学大学院工学研究科
仲村春和　東北大学加齢医学研究所
西谷和彦　東北大学大学院生命科学研究科
原田昌彦　東北大学大学院農学研究科
東谷篤志　東北大学大学院生命科学研究科
福重真一　東北大学大学院医学系研究科
堀井　明　東北大学大学院医学系研究科
松原洋一　東北大学大学院医学系研究科
三井久幸　東北大学大学院生命科学研究科
山本　融　東北大学加齢医学研究所
山本博章　東北大学大学院生命科学研究科
渡邊利雄　東北大学加齢医学研究所

特別委員

磯野克己　神戸大学理学部

◆学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、本号に一覧として掲載しております。そのうち、応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、本学会選考委員会または賞推薦委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問合せ、申請書類を各自お取寄せ下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1．提出物

1） 本申請に必要な書類（オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー）

2） 本学会の5名の選考委員用および学会控に、上記申請書類のコピー計6部（論文は不要）

3） 申込受付確認のための葉書（返信用の宛名を記入しておいて下さい）

2．提出先

※賞推薦についての送付先

日本分子生物学会 賞推薦委員長　花岡　文雄

〒565-0871 吹田市山田丘1-3　大阪大学細胞生体工学センター

Fax:(06)6877-9382

※研究助成についての送付先

日本分子生物学会 研究助成・選考委員長　岡田　清孝

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町　京都大学大学院理学研究科

Fax:(075)753-4257

3．提出期限

財団等の締切の1カ月前まで。提出期限後に受け取った場合や、提出書類が不備な場合は、選考の対象にならないことがあります。

◆研究助成一覧

名　　称	連　絡　先	件　　数	締　切	助成内容等	概　　要
第33回三菱財団自然科学研究助成	㈶三菱財団 ☎（03）3214－5754 〒100–0005 千代田区丸の内2–5–2	総額3億円，30件程度	2002年 2月14日	1件当り2,000万円まで	自然科学の基礎となる独創的，かつ先駆的研究とともに，国際的発展に先導的役割を担う萌芽ともなる研究（原則として個人研究）。
新化学発展協会2002年度研究奨励金	㈳新化学発展協会 ☎（03）3294－8031 〒101–0062 千代田区神田駿河台1–5	6課題， 各課題1件	2002年 2月1日	1件 100万円	新化学の発展に資する若手研究者（39歳以下）の研究に対して，研究奨励金を交付。 研究課題有り。
山田科学振興財団2002年度研究援助	㈶山田科学振興財団 ☎（06）6757－3311 〒544–8666 大阪市生野区巽西1–8–1	10件程度 （2件）	2002年 3月29日	1件当たり100～500万円， 総額4,000万円	自然科学の基礎的研究に対しての研究費援助。 （推薦書の請求は事務センター・福田 TEL 03–5814–5801まで）
アマシャムファルマシアバイオテク分子生物学若手研究者奨学金	アマシャムファルマシアバイオテク㈱ マーケットコミュニケーション室 ☎（03）5331–9334 〒169–0073 新宿区百人町3–25–1 サンケイビルヂング （応募先） Young Scientist Prize Selection Committee, SCIENCE Room 1053, 1200 New York Avenue, NW Washington, DC 20005, USA	若干名	2002年* 6月30日	最優秀賞金 US$ 25,000 その他の受賞者 US$ 5,000	1995年よりSCIENCE誌との協賛で，学位取得直後の優秀な若手研究者を支援するために Pharmacia Biotech & SCIENCE Prize for Scientists in Molecular Biology を設置。
国際生物学賞	国際生物学賞委員会 ☎（03）3263－1721 〒102–8471 千代田区麹町5–3–1 ヤマトビル 日本学術振興会内	1件 （1件）	2002年* 5月7日	賞状，賞牌， 1,000万円	生物学の研究において世界的に優れた業績を挙げ，世界の学術進歩に大きな貢献をした研究者。
第20回研究助成 第19回国内および海外留学補助金 第19回持田記念学術賞	㈶持田記念医学薬学振興財団 ☎（03）3358－7211 〒160–8515 新宿区四谷1–7	総額 5,000万円 総額 1,000万円 2件以内 （1件）	2002年* 6月30日 2002年* 6月30日 2002年* 7月31日	1件 100万円 1件 50万円 1件 300万円	生命科学・薬物科学・情報科学と医療応用の研究の分野における研究で，顕著な功績があり，かつ新進気鋭の研究者。
第29回日産学術研究助成 第10回日産科学賞	㈶日産科学振興財団 ☎（03）3543－5597 〒104–0061 中央区銀座6–16–9	Ⓐ総合研究 8件程度 （枠なし） Ⓑ奨励研究 30件程度 （平成14年度から日産財団への直接応募方式に変更予定） 2件 （1件）	2002年* 8月30日	Ⓐ1,000万円まで Ⓑ 200万円まで 賞状，メダル， 500万円	自然科学分野で，それぞれの研究の成果が学術の進歩・発展に貢献するところが大きいと思われるもの，新しい研究分野の開拓に貢献する研究者および研究グループ（奨励研究は40歳以下）。 自然科学分野で，学術文化の向上・発展に大きな貢献をした満50歳未満の研究者。
笹川科学研究助成	㈶日本科学協会 ☎（03）6229－5365 〒107–0052 港区赤坂1–2–2 日本財団ビル	約390件	募集期間 2002年* 9月3日 10月31日	1件当り100万円まで	人文科学，社会科学および自然科学（医学を除く），または境界領域の研究計画に関するもの。4月1日現在，35歳以下の若手研究者へ助成。
上原賞	㈶上原記念生命科学財団 ☎（03）3985－3500 〒171–0033 豊島区高田3–26–3	2件以内 （1件）	2002年* 9月10日	金牌， 1,000万円	生命科学の栄養学，薬学，基礎および臨床医学，社会医学で顕著な業績を挙げ，引き続き活躍中の研究者。
井上学術賞	㈶井上科学振興財団 ☎（03）3477－2738 〒150–0033 渋谷区猿楽町11–20	5件以内 （1件）	2002年* 9月20日	1件賞状，メダル， 200万円	自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績を挙げた者（ただし締切日現在満50歳未満）。

名　　称	連　絡　先	件　　数	締　切	助成内容等	概　　要
木原記念財団学術賞	㈱木原記念横浜生命科学振興財団 ☎（045）825－3487 〒244-0813 横浜市戸塚区舞岡町641-12	1件 （1件）	2002年* 9月30日	賞状，記念牌， 200万円	最近において生命科学の分野で優れた独創的研究を行っている国内の研究者で，原則として締切日現在50歳以下の者。
東レ科学技術賞	㈶東レ科学振興会 ☎（047）350－6103 〒279-8555 浦安市美浜1-8-1 東レビル	2件前後 （2件）	2002年* 10月10日	1件 賞状，金メダル 500万円	学術上の業績顕著な者，学術上重要な発見をした者，重要な発明により効果が大きい者，技術上の重要問題を解決し貢献が大きい者。
東レ科学技術研究助成		総額 1億3,000万円 10件程度 （2件）	2002年* 10月10日	特に定めず最大 3,000万円まで	基礎的な研究に従事し，今後の研究の成果が科学技術の進歩・発展に貢献するところが大きいと考えられる，独創的，萌芽的な研究を活発に行っている若手研究者。
第34回科学振興賞	㈶内藤記念科学振興財団 ☎（03）3813－3005 〒113-0033 文京区本郷3-42-6 NKDビル8階	1件 （1件）	2002年* 10月1日	正賞，金メダル 300万円	人類の健康の増進に寄与し得る自然科学の基礎的研究，自然科学の進歩発展に顕著な功績を挙げた研究者。
第34回海外学者招聘助成金		前後期各総額 500万円 （1件）	2002年* 5月31日 10月1日	1件 50万円まで	同上のテーマに取り組み，国際的に高い評価を得ている外国の研究者を招聘する受入れ責任者に贈呈。
ブレインサイエンス財団研究助成	㈶ブレインサイエンス振興財団 ☎（03）3273－2565 〒104-0028 中央区八重洲2-6-20	8件 （1件）	2002年* 11月25日	1件 80万円	ブレインサイエンス研究分野（脳神経に関する自然科学的研究をすべて含む研究領域）において独創的で国際的評価に値する研究者。なるべく若い者，単独または共同研究も可。
塚原仲晃記念賞		1件 （1件）		1件 100万円	
海外派遣研究助成		若干件 （1件）	2003年* 1月16日	1件 30万円まで	ブレインサイエンスの研究の促進を図るため，国際学会，シンポジウム等への参加，あるいは研究者の派遣を助成。
海外研究者招聘助成		若干件 （1件）		1件 30万円まで	同分野において独創的テーマに意欲的に取り組んでいる外国人研究者の招聘を助成。
研　究　助　成	㈶長瀬科学技術振興財団 ☎（06）6535－2117 〒550-8668 大阪市西区新町1-1-17	10数件	2002年* 11月30日	1件 250万円程度	生化学および有機化学等の分野において研究活動を行う研究者または研究機関。
国際交流助成		10件程度	2002年* 11月30日	1件 30万円程度	生化学および有機化学等の分野において研究調査を行う研究者の海外派遣または招聘(除く留学)。
2002年度研究集会助成	㈶ノバルティス科学振興財団 ☎（03）5414-5761 〒106-0032 港区六本木7-8-4 銀嶺ビル5F	約10件 （1件）	2002年* 1月31日	1件 50万円	わが国で開催される生物・生命科学およびそれに関連する化学の領域における研究集会に対し，運営経費の一部を助成する。研究集会はかなりの数の国外からの参加者を含む国際性豊かな集会でなければならない。ただし，参加者が1,000名を越すような大規模な研究集会および2国間の研究集会は原則として助成の対象としない。

（　）内は、応募に当たり学協会等からの推薦が必要な場合、本学会の推進枠を示しています。
*は、本年度の案内を受取っておらず、昨年の締切日を参考に示してあります。

◆各種学術集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ

○第39回 日本臨床分子医学会学術総会

日　　時：2002年3月1日（金）～2日（土）
会　　場：千里ライフサイエンスセンター
豊中市新千里東町1-4-2　地下鉄御堂筋線
千里中央駅下車
Tel：(06) 6873-2000
会　　長：松澤佑次（阪大・院医・分子制御内科）
企　　画：Translational research に重点をおき、大学と企業間の情報交換を行う予定。
Translational Research Forum は一部公募。
参 加 費：8,000円
事 務 局：大阪大学大学院医学系研究科 B5
分子制御内科学講座
冨山佳昭、巽由美子
〒565-0871 吹田市山田丘2-2
Tel：(06) 6879-3732 Fax：(06) 6879-3739
E-mail：39rinbun@imed2.med.osaka-u.ac.jp
URL：http://www.congre.co.jp/39rinbun/

○第156回 液体クロマトグラフィー研究懇談会

日　　時：2002年3月22日（金）13：00～17：50
会　　場：東京理科大学記念講堂1号館17階
新宿区神楽坂1-3（JR 総武線飯田橋駅下車）
Tel：(03) 3260-4271
主　　催：日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会
協　　賛：日本化学会、日本薬学会
講演主題：食品分析をめぐる HPLC の動向
講　　演：
1．食品中に残留する薬物の分析
堀江正一（埼玉衛研）
2．飼料中の有害物質の定量法
白井裕治（肥飼料検査所）
3．鶏由来コラーゲンペプチド摂食後の血中動態の解析
田口靖希（日ハム）
4．精度管理用試料の開発
藤代克之（関東化学）
5．食品分析を効率化する試料前処理及びカラム技術について
佐々木俊哉（日本ウォーターズ）
6．LCMS-2010による食品分析例―特に UV 検出器との比較例を中心に
村北宏之（島津）
7．デベロシル C30固定相による食品成分分析の紹介
榎並敏行（野村化学）
8．食品添加物及び食品成分の迅速測定例の紹介
山崎浩行（東ソー）
9．HPLC を用いた食品中の糖分析について
大出　桂（昭光通商）
10．食品分析における HPLC の可能性
中村　洋（東理大・薬）
参 加 費：LC 研究懇談会会員　1,000円
分析化学会・共催学会会員　2,000円
その他　3,000円
学　生　無　料
参加費は当日申し受けます。
カタログ展示：1小間　5,000円
懇 親 会：講演終了後、講師を囲んで忘年会を開催します（1号館　17階大会議室）
会　費　1,000円
申込方法：参加希望者は、氏名、勤務先、会員（所属学会）および懇親会参加の有無を明記の上、Fax または E-mail にて下記宛お申込みください（定員締切後のお申込みについては後日ご連絡します）。
申 込 先：日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会
〒141-0031 品川区西五反田1-26-2
五反田サンハイツ304号
Tel：(03) 3490-3351 Fax：(03) 3490-3572
E-mail：ktanaka@jsac.or.jp

○遺伝子・デリバリー研究会 第2回シンポジウム

日　　時：2002年5月17日（金）10：30～18：00
場　　所：京都テルサ
招待講演：杉山雄一（東大・薬）、吉川研一（京大・理）、谷憲三朗（東大・医科研）、森下竜一（阪大・医）、多比良和誠（東大・工）
依頼講演：西川元也（京大・薬）、恵美宣彦（名大・医）、丸山一雄（帝京大・薬）、松田　修（京都府立医大）
ポスター発表演題申込締切：2002年3月29日（金）必着 ⑴演題、⑵氏名（発表者に○）、⑶所属、⑷連絡先（住所・Tel・Fax・E-mail）を明記の上、山岡宛に E-mail（gene2@ipc.kit.ac.jp）にてお申込みください。
参加事前登録締切：2002年4月30日（火）
⑴氏名、⑵所属、⑶連絡先（住所・Tel・Fax・E-mail）、⑷研究会会員・非会員の別、⑸懇親会参加の有無を明記の上、山岡宛に E-mail（gene2@ipc.kit.ac.jp）にてお申込みください。
参加費（含む要旨集代）：
正会員および正会員の研究室に所属する学生：　無料
会 員 外：　一般5,000円、学生1,000円
懇親会費：　5,000円
（参加費は当日徴収いたします）
連 絡 先：〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町
京都工芸繊維大学高分子学科
山岡哲二（シンポジウム実行委員長）

Tel & Fax：(075) 724−7823
E-mail：gened2@ipc.kit.ac.jp
URL：http://www.bfc.bioa.eng.osaka-cu.ac.jp/gd2002/gdsympo2002.html

○第 6 回 マリンバイオテクノロジー学会大会

日　　時：2002年 5 月25日（土）〜26日（日）
会　　場：東京農工大学工学部小金井キャンパス
主　　催：マリンバイオテクノロジー学会
発表申込締切：2002年 3 月15日（金）必着
予稿原稿締切：2002年 4 月12日（金）必着
発表形式：口頭発表（質疑含み15分、OHP 使用）、ポスター発表
大会内容：
1．一般講演（口頭発表、ポスター発表）
2．特別シンポジウム（予定）
海洋生物資源
マリンゲノミクス・プロテオミクス
マリンバイオとバイオベンチャー
3．懇親会
一般講演のセッション：
以下の 9 セッションを予定しております。
(1)微生物(2)微細藻(3)海藻・付着(4)天然物・有用資源(5)魚貝類(6)バイオミネラリゼーション(7)環境(8)マリンゲノム(9)その他
発表・参加登録申込方法：
申込者氏名、所属、住所（郵便番号）、Tel、Fax、E-mail、発表形式、発表希望セッション、発表者氏名（連名の方全員）、演題、会員・非会員の別、を明記の上、下記の申込先までお申込みください（E-mail をご利用ください）。なお、発表者は学会会員に限らせていただきます。詳しくは大会ホームページをご覧ください。発表・参加登録申込をされた方に受付通知、振込用書類、講演要旨の作成要領等をお送りします。
参加登録費（含む講演要旨集代）：
〈4 月30日（火）まで〉
会　員：　一般5,000円　　学生3,000円
非会員：　一般9,000円　　学生4,000円
〈5 月 1 日（水）以降〉
会　員：　一般7,000円　　学生4,000円
非会員：　一般10,000円　　学生5,000円
懇 親 会：5 月25日（土）18：15〜20：15
東京農工大学小金井キャンパス生協食堂
会　費：　一般5,000円　　学生3,000円
申 込 先：〒184−8588 小金井市中町 2−24−16
東京農工大学工学部生命工学科
第 6 回マリンバイオテクノロジー学会大会事務局
池袋一典
Tel：(042) 388−7403 Fax：(042) 388−7403
E-mail：sode-lab@cc.tuat.ac.jp
学会ホームページ：http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsmb/
大会ホームページ：http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsmb/6thmbio.html

◯Epigenetic mechanisms in Human Disease

日　　時：2002年 5 月30日（木）〜31日（金）
会　　場：アメリカ合衆国　Tethesda Maryland (NIH)
主 催 者：Center for Cancer Research, National Cancer Institute, Bethesda, Maryland
内　　容：Diseases, Complex traits, Model organisms, Stem cells, Basic mechanisms, Cancer 等
連 絡 先：Karen Sofer, Palladian Partners, Inc.
Tel：+1−301−650−8660　Ext. 118
E-mail：ksofer@palladianpartners.com
URL：http：//www.palladianpartners.com/epigenetics/

◯第 2 回日本蛋白質科学会年会

日　　時：2002年 6 月13日（木）〜15日（土）
会　　場：名古屋国際会議場
〒456−0036 名古屋市熱田区熱田西町 1−1
名古屋市営地下鉄名城線「日比野」または「西高蔵」下車、徒歩 5 分
年会代表者：郷　通子（名大・院理・生命理学）
テ ー マ：ゲノム時代の蛋白質研究
〜原子レベルから細胞レベルまで
公募型シンポジウムの演題申込締切：
2002年 3 月20日（水）
一般演題（ポスター発表）申込締切：
2002年 4 月17日（水）
参加登録予約申込締切：2002年 5 月10日（金）
参加登録費（含む予稿集代）：
一般6,000円（当日7,000円）
学生4,500円（当日5,000円）
懇親会費：
一般8,000円（当日9,000円）
学生3,000円（当日4,000円）
発表・参加登録申込方法：
参加登録予約、および発表の申込みは、インターネット上の年会ホームページ（http：//edpex104.bcasj.or.jp/pssj2002/）で近々受付けを開始します。また、公募型シンポジウムの演題の募集、および、ポスター発表の一般公募（ポスター発表からワークショップでの口頭発表へのピックアップあり）を行います。公募型シンポジウムでの発表、および、ポスター発表をされる方は、蛋白質科学会の学会員に限ります。
公募型シンポジウムについて：
年会の主題「ゲノム時代の蛋白質研究〜原子レベルから細胞レベルまで」に沿った演題を募集します。ご提案いただきました演題の

採否は年会準備委員会内のプログラム委員会で決定させていただき、全体の内容をふまえてプログラム委員会でオーガナイザーを選任いたします。シンポジウムでの発表を希望される方は演題名、発表者名、所属を含めて1,600文字以内で要旨を作成して上記締切日までにお申込み下さい。

問合せ先：第２回日本蛋白質科学会年会事務局
〒560-0082 豊中市新千里東町 1-4-2
千里 LC ビル14階　学会センター関西内
Tel：(06) 6873-2301　Fax：(06) 6873-2300
E-mail：pssj2002@bcasj.or.jp
URL：http：//edpex104.bcasj.or.jp/pssj2002/

○第23回 日本糖質学会年会

日　　時：2002年８月22日（木）～24日（土）
場　　所：神奈川大学横浜キャンパス
主　　催：日本糖質学会
討論主題：糖質、複合糖質の化学と生化学・分子生物学、構造と機能、分析法と合成法および医薬と食品工業などへの応用を主題とします。
　昨年同様、発表申込および発表要旨原稿申込用に本学会のホームページを開設いたします。演題申込方法の詳細は2002年３月１日より当該ホームページ（http://www.gak.co.jp/jscr/）に記載いたします。また、申込はインターネット上で当該ホームページからのアクセスにより受付いたしますので、申込期限を参照の上、ホームページより直接お申込みくださいますようお願い申し上げます。
口頭発表：
1．発表内容は自己の業績を中心とした総括的なもので、討論の素材を充分に提供できるものであること。演者は討論に充分対応できる人をお願いします。
2．講演時間は討論を含め25分を予定しています。
3．スライドを原則としますが、OHP、PC による発表にも対応できるように検討中です。適宜、ホームページに情報を掲載します。
4．１研究室あたり１発表を原則とし、採否は世話人会にご一任ください。なお、口頭発表を採択された方にはその旨を通知いたします。
ポスター発表：
1．発表内容は新規な結果を中心としたもので、討論の素材を充分に提供できるものであること。
2．研究室あたりの発表数には制限はありませんが、採否は世話人会にご一任ください。
　なお、ポスター発表に採択された方にはその旨を通知いたします。
インターネットによる申込期限：
　2002年４月15日（月）～５月17日（金）
申込確認について：
　口頭発表およびポスター発表の申込者はインターネットで申込み時、受付番号を各自控えて保存しておいてください。
参加登録：
　日本糖質学会正会員および共催学会正会員：5,000円（5,500円）
　日本糖質学会学生会員および共催学会学生会員：2,500円（3,000円）
　一　　般：6,000円（6,500円）
　一般学生：3,000円（3,500円）
　*（　）内の金額は当日受付の場合です。
要 旨 集：5,000円（送料を含む、本会員には７月下旬に無料で配布します）
登録方法：参加登録料、懇親会会費、要旨集代金の内訳を明記の上、７月19日(金)までに銀行振込、または郵便振替にて下記口座宛お振込みください。
　〈銀行振込〉
　口座番号　東京三菱銀行青葉台支店
　普通預金　0636063
　口座名　　第23回日本糖質学会年会
　世話人代表　橋本　弘信
　〈郵便振替〉
　口座番号　00220-2-9587
　加入者名　第23回日本糖質学会年会
採択の通知に関して：
　インターネットでの受付終了日（2002年５月17日）以降、一週間程度で各演者には E-mail にて採択可否の通知を行います。２週間を過ぎても採択通知が届かない場合は、下記まで Fax にてお問合せください。
懇親会、宿泊旅行案内：
　ホームページをご覧ください。
問合せ先：〒226-8501 横浜市緑区長津田町4259
東京工業大学大学院生命理工学研究科
第23回糖質学会世話人会
代表　橋本弘信
Tel：(045) 924-5704 Fax：(045) 924-5704
E-mail：hhashimo@bio.titech.ac.jp
URL：http://www.gak.co.jp/jscr/

○日中国交正常化30周年記念「日中医学大会2002」

日　　時：2002年11月３日（日）～６日（水）
会　　場：北京国際会議センター
開催要項：
1．大会日程および会場
　11月３日（日）
　　午前～　　参加登録（北京国際会議センター）
　　18：00～　開会式、歓迎宴・京劇等アトラクション（人民大会堂）
　11月４日（月）
　　午前　　記念講演（北京国際会議センター）
　　午後　　分科会（北京国際会議センター）
　　夜　　分科会で個別に企画
　11月５日（火）～６日（水）
　　午後　　分科会（北京国際会議センター）
　　午後　　分科会で個別に企画（病院見学、座談会など）

2．開会式
開催日時　2002年11月３日（日）18：00～19：30
次第（案）
⑴　開会宣言　　日本側：大会副会長
⑵　開会挨拶　　日本側：組織委員会委員長
⑶　主催者挨拶　日本側：大会会長
⑷　来賓挨拶　　日本側：大会名誉会長

3．記念講演
開催日時：2002年11月４日（月）８：30～12：00
日中各３題づつ計６題
テ ー マ：中国（遺伝子、疾病構造の変化、医学倫理）
日本（遺伝子、神経科学）

4．分科会
日程（11月４日～６日の間に適宜実施する）・プログラムについては、個別に中華医学会（分科会）と連絡の上ご決定ください。なお、相手方不明の場合は、大会事務局にご連絡ください。

5．使用言語
記念講演　　日本語/中国語　同時通訳
論文抄録集　英語
プログラム　　日本語/中国語　併記
サーキュラー　英語

6．参加費用
⑴　登録費

	7月31日まで	8月１日以降
参加者	30,000円	36,000円
同伴者	18,000円	24,000円
学　生	12,000円	18,000円

①第１次締切日　2002年７月31日（水）
②参加登録料に含まれるもの
開会式、歓迎宴、記念講演会、分科会、プログラム・講演抄録集、シャトルバス、同伴者プログラム
⑵　その他の費用
分科会が独自に企画するもの以外は学会ごとの費用分担はありません。ただし、㈶日中医学協会および中華医学会の募金活動には可能な限りご協力いただきますようお願いします。

7．宿泊・旅行
指定業者（現在選考中）にお申込みください。
詳細は、後日改めてご連絡いたします。

大会事務局：
日本側：〒101-0053 千代田区神田美土代町11-2
財団法人日中医学協会
事務局長　岸野正明
担 当 者　磯野真知子
Tel：(03) 3291-9161
Fax：(03) 3291-9164
E-mail：2002info@jpcnma.or.jp
URL：http://www.jpcnma.or.jp
中国側：中華人民共和国　北京市東四西大街42号
中華医学会対外聯絡部
「中日医学大会秘書処」
Tel：＋86-10-6513-4885
Fax：＋86-10-6512-3754

新入会用 Web site　URL：http://bunshi.bcasj.or.jp/

日本分子生物学会 会報

年 3 回刊行

第71号（2002年 2 月）

発　行：日本分子生物学会 庶務幹事

製　作：学会センター関西

㈶日本学会事務センター 大阪事務所